

平成21年度

大阪市立大学大学院法学研究科法曹養成専攻入学者選抜試験

【2年短縮型】

法律科目試験問題：商法（配点：100点）

注意事項

- 1 問題冊子は、監督者が「解答始め」の指示をするまで開かないこと。
- 2 問題冊子は、全部で2ページである。
解答用紙は、全部で8ページである。
問題冊子、解答用紙に脱落のあった場合には申し出ること。
- 3 解答用紙の上部所定欄に、1ページには氏名、受験番号、試験の科目名を、2ページ以降は各ページに氏名を忘れずに記入すること。
- 4 解答は、第1問は1ページから、第2問は5ページから記入すること。
- 5 解答以外のことを書いたときは無効とすることがある。
- 6 机上に各自の「受験票」と「大学入試センター法科大学院適性試験受験票」を出しておくこと。
- 7 解答用紙は、8ページを超えて使用することはできない。

(商法)

第1問

会社法において、譲渡制限株式の評価が問題となるのはどのような場合か、また、その場合の評価方法についても論じなさい。

(配点：50点)

(商法)

第2問

Y株式会社は、発行済株式の総数が10,000株である公開会社であり、そのうち3,000株を自己株式として保有している。Y社は、主として、関西地区を中心とするボーリング場の経営を業としており、一部の店舗では、ボーリング場に併設してビリヤード場やカラオケボックスも運営している。Y社の代表取締役であるAは、飲料販売を業とするB株式会社の代表取締役を兼務しており、Y社は、B社から飲料を購入している。

X株式会社は、Y社の250株を保有する株主であり、主として、関西地区を中心とするカラオケボックス店の経営を業としている。X社は、Y社に対し、その営業時間内に、「Y社とB社の取引において架空売上げの計上などの疑いがあり、その事実を調査するため」という理由を付して、「平成19年度における、Y社とB社の取引に関する会計帳簿および資料」の閲覧および謄写を請求した。

Y社はX社の請求を拒むことができるか、会計帳簿の閲覧等の請求権の趣旨を明らかにした上で、論じなさい。

(配点：50点)